

授業科目の区分	専門分野《基礎看護学》															
授業科目	看護の概念															
開講年次・学期	1 年次・前期															
単位（時間）	1（30）															
担当講師	《副校長》看護師としての実務経験あり															
科目のねらい	看護学の中で最初に学ぶ科目です。看護の歴史的変遷を踏まえ、看護の主要概念である人間・健康・環境・看護について、広い視点で学びます。また、人々の健康に寄与する看護職について理解し、医療の中の看護の役割と機能、看護活動の場についての概略を学ぶ科目です。さらに看護を追究する姿勢や学ぶ方法を知り、これからの学修に活かすことをねらいとします。															
到達目標	看護全般の概念をとらえ、看護の位置づけと役割を理解し、看護の本質を追究する姿勢を養う。															
授業計画	回	内容と方法									事前学習			事後学習		
	1（2h）	1. 授業ガイダンス（講義）・看護への導入 基礎看護学の位置づけ												これから学ぶ看護学について考える		
	2（2h）	2. 看護の歴史的な変遷（講義）														
	3（2h） 4（2h）	3. 人間と生活（講義・演習）									自分の生活・健康について考える			学習内容の整理をする		
	5（2h） 6（2h）	4. 健康と環境（講義・演習）														
	7（2h）	5. 看護の日校外学習														
	8（2h） 9（2h）	6. 看護の概念（講義・演習） 様々な看護の定義 ナイチンゲールの看護論 課題図書との共有									ナイチンゲールの看護の考え方について考える			事例から看護であること・ないことを考える		
	10（2h）	7. 保健・医療・福祉システムと看護（講義）									「看護者の倫理綱領」の熟読。 現代の保健・医療・福祉の課題について考える			これからの社会に求められる看護を考える		
	11（2h）	8. 保健医療福祉チームにおける保健師の役割														
	12（2h）	9. 現代の保健・医療・福祉が直面する課題（講義） 西日本豪雨災害の活動と災害時の看護職の役割														
	13（2h） 14（2h）	10. 看護における倫理（講義・演習）														
		15（2h）	11. まとめと終了試験													
必携文献	1) 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕看護学概論，医学書院，2024. 2) 社団法人日本看護協会監修：2024 年版 看護者の基本的責務—定義・概念／基本法／倫理，日本看護協会出版会， 3) F. ナイチンゲール著 湯楨 ます他訳：看護覚え書，現代社，2024.															
参考文献	1) 厚生統計協会編：厚生指針 国民衛生の動向															
成績評価方法	事前学習、出席状況、参加姿勢、レポート提出、客観テストで評価し、6 割以上を合格とする。															
備考	人々の健康や豊かな生活を支えていく看護を学ぶ第一歩です。自己の問いを育みつつ考えを深めていきましょう。															
出席自己 チェック欄 30h	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30 試験 (1)	

授業科目の区分	専門分野《基礎看護学》																
授業科目	フィジカルアセスメント																
開講年次・学期	1 年次・前期																
単位（時間）	1（30）																
担当講師	《専任教員》看護師としての実務経験あり																
科目のねらい	看護行為に共通する援助技術の一つとして本科目を設定する。看護職は、対象となる人のいのちと暮らしを護るため、対象の状態をアセスメントし、適切な看護を提供するという役割を担っている。本科目では主に、身体的な情報を意図的に収集し、判断、共有するための思考を学ぶ。五感を駆使したフィジカルイグザミネーションの技術、私たちが把握することのできる身体への反応と身体内部で起こるそのメカニズムを統合し、対象の身体をアセスメントする基礎的能力を身につけることをねらいとしている。																
到達目標	①フィジカルアセスメントの意義と思考過程が理解できる ②フィジカルアセスメントに必要な身体的情報を収集する技術を身につける																
授業計画	回	内容と方法								事前学習				事後学習			
	1	講義：本授業で学ぶこと フィジカルアセスメントの意義とバイタルサイン								体温、呼吸、循環のしくみ				学びの整理シート			
	2	講義：バイタルサインの観察とアセスメント 「体温」「呼吸」								体温と呼吸に関する基礎知識				学びの整理シート			
	3	講義：バイタルサインの観察とアセスメント 「脈拍」「血圧」（触診法／聴診法）								循環に関する基礎知識				学びの整理シート			
	4	講義：バイタルサインの観察とアセスメント 「意識レベル」 バイタルサインの影響とその変動因子 身体計測（身長、体重、腹囲）								意識に関する基礎知識				学びの整理シート			
	5・6	演習：バイタルサインの測定（実習室） 身体計測								測定方法の確認				バイタルサイン測定のコツと戦略			
	7	試験：血圧測定 確認テスト								技術練習				確認テスト自己学習			
	8	講義：フィジカルアセスメントのすすめ方 フィジカルアセスメントに必要な技術												学びの整理シート			
	9	講義・演習：呼吸器系のフィジカルアセスメント 異常呼吸音の性質の把握、種類の判断 異常・正常呼吸音のリスニング パルスオキシメーターの落とし穴								呼吸器の解剖生理 自分の呼吸音の聴診をする				学びの整理シート			
	10																
	11	講義・演習：循環のフィジカルアセスメント 血圧、静脈圧、心音、心尖拍動、								循環器の解剖生理 自分の心音を聴診する				学びの整理シート			
	12																
	13	演習：「みんなで考えよう！フィジカルアセスメント」								事例課題に関連する学習				学びの整理シート			
	14	実習で役立つフィジカルイグザミネーション 腹部の見方、MMT、関節可動域、意識レベル、 深部静脈血栓と肺塞栓								イレウスの種類、意識レベルの判定方法・種類、MMT				学びの整理シート			
	15	終了試験												看護におけるフィジカルアセスメントの意義			
	講義																
必携文献	1）茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2023. 2）医療情報科学研究所編：看護が見える3フィジカルアセスメント，メディックメディア，2019.																
参考文献	1）坂井健雄著：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学，医学書院，2022. 2）任和子・秋山智弥編：根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 2022.																
成績評価方法	事前課題・事後学習提出状況、客観テスト（リスニングテスト含む）、レポート課題で評価し、6割以上を合格とする。詳細な評価視点は授業の中でお伝えします。																
備考	本授業の心得 1 感じて学ぶ 2 自分で学ぶ 3 みんなで学ぶ																
出席自己 チェック欄 30h	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30 試験 (1)		

授業科目の区分	専門分野《基礎看護学》	
授業科目	日常生活援助技術の統合	
開講年次・学期	1 年次・前期	
単位（時間）	1（30）	
担当講師	《専任教員》看護師としての実務経験あり	
科目のねらい	ナイチンゲールは看護を「art and science」であるとも述べています。看護師には患者の事実に即して最善の方法を工夫することが求められています。本授業では、事例に基づいて、日常生活援助の必要性や目的、方法を考え、演習を行います。また、患者役、観察者となり他者の立場から見る体験と看護者として身体を動かす体験を繰り返しながら、グループで気づき・学びを共有しながら わざの訓練をします。	
到達目標	事例に基づいた日常生活援助を具体的に体験することを通して、看護技術を修得する。	
授業計画	「日常生活援助技術」と合わせて進める。	
	回	内容と方法
	1 (2h)	演習 活動・休息援助技術 ① 1) 体位変換
	2 (2h)	演習 活動・休息援助技術 ②
	3 (2h)	1) 車椅子への移乗・移送 2) ストレッチャーへの移乗・移送
	4 (2h)	演習 苦痛の緩和・安楽確保の技術 1) 体位保持（ポジショニング） 2) 温電法・冷電法
	5 (2h)	演習 清潔・衣生活援助技術 ① 1) 全身清拭 2) 寝衣交換
	6 (2h)	演習 清潔・衣生活援助技術 ② 1) 陰部洗浄 2) おむつ交換
	7 (2h)	演習 清潔・衣生活援助技術 ③
	8 (2h)	1) 手浴・足浴 2) 洗髪 3) 整容
	9 (2h)	演習 食事援助技術 ① 1) 食事介助（嚥下障害のある患者を除く）
	10 (1h)	演習 食事援助技術 ② 1) 摂食・嚥下訓練 2) 経管栄養法

	11 (2h)	演習 排泄援助技術 ① 1) 自然排尿および自然排便の援助（床上排泄・ポータブルトイレ等）																
	12 (2h)	演習 排泄援助技術 ② 1) 導尿																
	13 (2h)	演習 排泄援助技術 ③ 1) 浣腸																
	14 (2h)	演習 看護技術テスト 演習 ① ②																
	15 (2h)	事例をもとに、複数の援助技術項目を組み合わせ、援助計画を立案する。 事例に基づいた患者を想定し、繰り返し練習を行い、技術を修得する。																
	16 (1h)	看護技術テスト																
必携文献	1) 任和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2024. 2) 任和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2025. 3) 任和子・秋山智弥編：根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術，医学書院，2023. ＊ 看護技術経験の綴り																	
参考文献	1) 坂井建雄著：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学，医学書院，2024. 2) 西沢いづみ他：これから看護を学ぶ学生のための理科・計算・国語・社会の復習ワーク&ドリル，医学書院，2023.																	
成績評価方法	課題内容・提出状況、参加姿勢、終了試験で評価し、6割以上を合格とする。																	
備考	単元毎にグループを組み、演習を行います。体調を整えて全日程の出席を望みます。 看護技術テストの詳細はオリエンテーションで説明します。 ※日常生活援助技術・日常生活援助技術の統合の単位を修得した者でなければ、基礎看護学実習Ⅰ(日常生活援助)を履修することはできない。																	
出席自己 チェック欄 30h	2	4	6	8	10	12	14	16	18	19	21	23	25	27	29	30		

授業科目の区分	専門分野Ⅰ《基礎看護学》															
授業科目	看護を展開する技術															
開講年次・学期	2年次・前期															
単位（時間）	1単位（30）															
担当講師	《専任教員》看護師としての実務経験あり															
科目のねらい	看護は人間が本来持つ自然治癒力を発揮しやすい環境を整え、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通してその人らしく生を全うすることができるよう支援することを目的としている。対象となる人はあらゆる発達段階・健康レベルにあり、多様な価値観をもつ生活者である。対象と丁寧にかかわりあい、対象の健康上の問題を見極め、その時最適かつ個別的な看護を提供するために、その基本となる思考過程を「看護を展開する技術」として習得する。時代が変わろうとも色あせない看護の本質・専門性についてともに考えられる授業としたい。															
到達目標	看護の過程的構造とその展開方法が理解できる															
授業計画	春期休暇課題 1回目 授業ガイダンス 看護の過程的構造 2回目 対象の全体像を捉える 3回目 看護過程の形式面（専門職の思考プロセスとは） 何がなぜ看護の情報なのか 4回目 演習①：観察による情報の収集 5回目 看護の視点と事実の情報化 6回目 演習②：全体像をとらえ看護の方向性を探る 7回目 情報の分析とは（情報の持つ意味を考えるとときに必要な知識と力） 8回目 看護上の問題を明らかにする思考 9回目 持てる力を活用した看護計画 10回目 演習③看護上の問題の明確化・看護計画の内容 11回目 看護記録は何のため？ 12回目 演習④：私の看護を実践する（事例患者に一人ひとりが看護を実践する） 13回目 実践を振り返り、評価する＜看護記録 SOAP 方式＞ 14回目 演習⑤：私の看護実践を評価し、よりよい看護を導き出す 15回目 看護過程とは 演習ではグループにわかれ、教員（看護の先輩）の指導をうけながら互いに学ぶ															
必携文献	1）任和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2023.															
参考文献	授業の中で紹介します															
成績評価方法	課題の取り組み状況（春期休暇課題含む）・出席状況・学習への取り組みを総合的に判断し6割以上を合格とする 詳細は授業の中で説明する															
備考	・理解を深めるためには、講義を聴くだけでなく、主体的に事前・事後学習に取り組むことが必須。 ・看護実践のための学習スキルを磨くには、「わからない」感覚を大切に、丁寧に訓練する姿勢が重要となる。 （倉敷中央看護専門学校細則 第5章 第11条（履修方法）3）より 基礎看護学実習Ⅰ（看護との出会い・日常生活援助）・看護を展開する技術の単位を修得した者でなければ、基礎看護学実習Ⅱ（看護過程の展開）を履修することはできない。															
出席自己 チェック欄 30h	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	